



あゆみ

青梅市立河辺小学校 学校便り
No. 687 令和7年2月3日
青梅市立河辺小学校

「青梅学」～「ふるさと青梅」の歴史や文化、自然、産業、生活などを学ぶ～

先日は学校公開にたくさんの方にご来校いただきました。小学生の子供たちにとっては、保護者の皆様に頑張る姿をご覧いただき、たくさん褒めていただいたり価値づけていただいたりすることが、自己肯定感を育み、「これからも頑張ろう」という向上心をもつ原動力となります。いつも本校の教育活動へご協力いただきまして、本当にありがとうございます。

また、昨年度末に実施した学校評価アンケートや今回のような学校行事アンケートでは、感想もたくさんお寄せいただき、ありがとうございます。クラスや子供たちの良さに加えて、教員の授業や様子、学校としての取組にも、たくさんの労いや励ましの声をいただけることが多く、心よりうれしく思っております。これを励みに、これからも子供の成長を、保護者の皆様と力を合わせながら、力強く支えていけるよう努めてまいります。

さて、その「学校評価アンケート」に「青梅学」という文言がありました。「青梅学って何だろう？」と思われた方もいらっしゃるのではないかと思います。「青梅学」は青梅市教育委員会として推進している考え方で「ふるさと『青梅』のよいところを再認識し、青梅市に愛着と誇りをもって、歴史や文化、自然、産業、生活などについて学ぶ学習」とし、市内各校の教育課程に位置付けられています。

河辺小学校でも、「自らが育つ地域（青梅、西多摩）を体験的に学ぶことを通して、よさを知り、学校や郷土を大切に思う心を育む。」「東京・日本・世界と視野を広げ、自分たちのまちと比べることで、まち（地域）ごとのよさに気づき、まち（社会）に関心を持ち、自らもその担い手となる意欲をもつ。」をねらいとし、学校行事・生活科・総合的な学習の時間・社会科・理科等を関連させて、発達段階を踏まえた学習を実践しています。

具体的な活動として、一番に挙げられるのは、5年生で実施している御岳移動教室（1泊2日）や森の学習（林業体験）です。いずれもただ活動するだけではなく、事前に調べ学習やゲストティーチャーを招いての学習を行ったり、事後に学習をまとめて下級生への発表会を行ったりと学びを深める工夫を行っています。低学年や中学年での地域探検や地域施設への訪問、遠足、市内めぐりや都内めぐり等の社会科見学なども、青梅学と関連させて実施していますし、6年生の日光移動教室も、他地域等のよさに視野を広げること、青梅のよさを再認識することもねらいとしています。

また、河辺小で伝統的に取り組んでいる「愛鳥モデル校」としての活動も、現在は「愛鳥博士の活動などを通して、青梅の自然や環境に関心をもつこと」をねらいとして、「青梅学」の一環として位置づけ、持続可能な活動となるように進めています。

今年度は、第八支会の方にご協力をいただき、6年生で地域の歴史について学ぶ授業を実施していただきました。また、例年2・3年生を対象に行っているバードウォッチング体験授業にはNPO自然環境アカデミーの方に、5年生の森の学習（林業体験）にはNPO青梅りんけんや地元林業家の方にご協力いただいています。青梅市や地域の教材化には、地域の皆様のご協力が必要不可欠です。心より感謝しております。

これからも、「青梅学」を橋渡しに地域の方々のお力もお借りしながら、教育活動の充実が図っていけるよう、努めていきます。ご協力の程、よろしくお願いいたします。